


# 第58期 株主通信

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

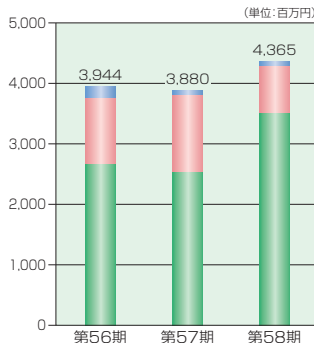
 麻生フォームクリート株式会社

証券コード 1730

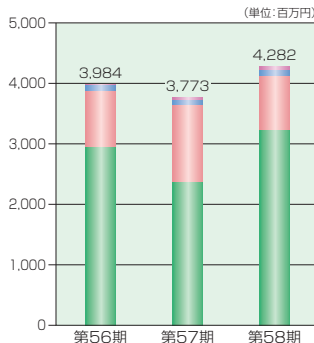


## 業績ハイライト

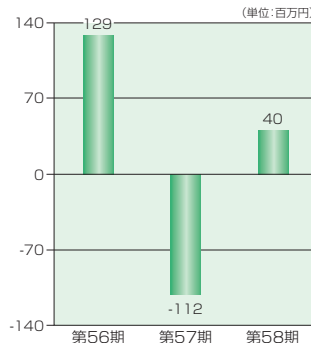
■ 受注高 (単位:百万円)



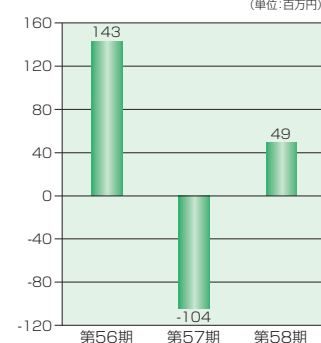
■ 売上高 (単位:百万円)



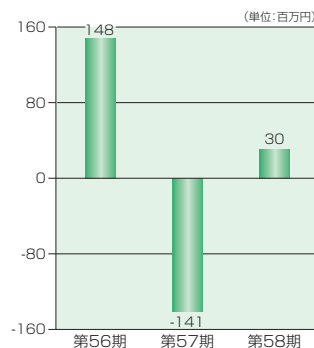
■ 営業利益又は営業損失 (単位:百万円)



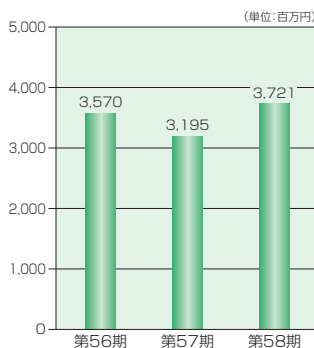
■ 経常利益又は経常損失 (単位:百万円)



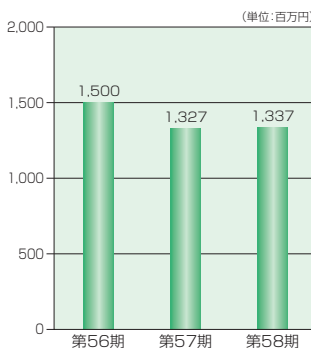
■ 当期純利益又は当期純損失 (単位:百万円)



■ 総資産 (単位:百万円)



■ 純資産 (単位:百万円)

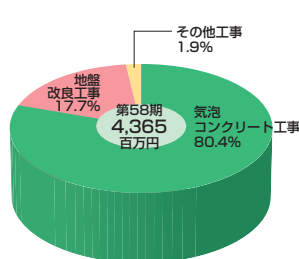


■ 1株当たり純資産 (単位:円)



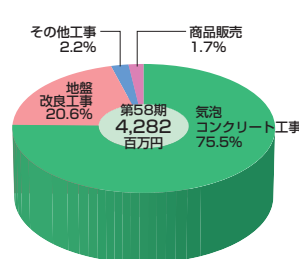
■ 受注高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第58期
軽量盛土工事	2,196
管路中詰工事	748
空洞充填工事	565
気泡コンクリート工事計	3,510
地盤改良工事	771
その他工事	82
計	4,365



■ 売上高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第58期
軽量盛土工事	1,911
管路中詰工事	587
空洞充填工事	733
気泡コンクリート工事計	3,232
地盤改良工事	880
その他工事	94
商品販売	75
計	4,282



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第58期株主通信をお届けするに当たりご挨拶申し上げます。

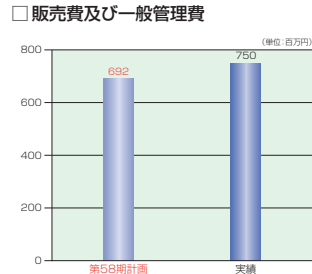
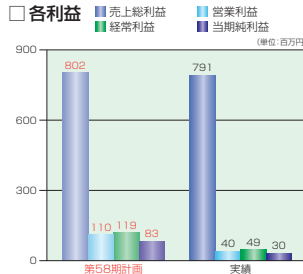
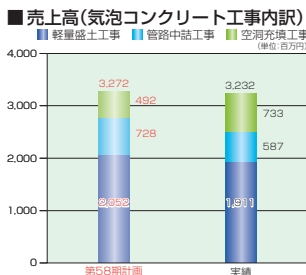
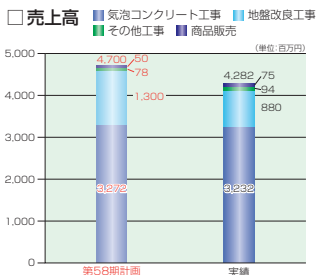
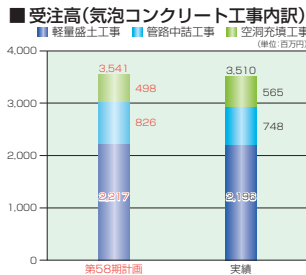
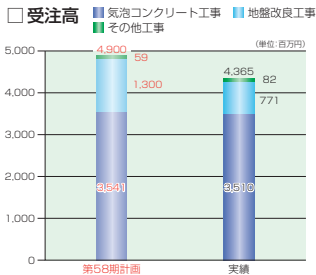
第58期事業年度におきましては、建設投資は堅調に推移し、建設業界にとって好環境が続きました。

このような状況下ではございましたが、前事業年度の施工不良の発生に続き、第58期事業年度も誠に遺憾ながら、上期に取引先の破綻により貸倒損失を出すという事態が発生いたしました。全社一丸となり下期に施工の効率化に注力した結果、完成工事総利益率が向上し黒字決算で終わることが出来ましたが、株主の皆様には多大なご心配をお掛けいたしましたことに深くお詫び申し上げます。

第59期事業年度は、今まで組織として分けておりました気泡コンクリート工事と地盤改良工事の営業及び施工の一体化をはかることでそれぞれの業務効率を向上させ、受注拡大と利益確保に取組んでまいります。また施工管理及び与信管理のみならず、想定されるリスクへの対応を強化するとともに、企業価値の向上のため、引き続き経営テーマとしての「技術開発の促進及び新たな技術導入による効率化」「提案営業強化による市場の創造」「徹底したコスト管理」「人材確保と施工体制の強化」に取り組んでまいります。

今後とも株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### ■第58期事業の概況



### ■次期の見通し

第59期事業年度の建設業界におきましては、建設投資は堅調に推移することが見込まれております。専門工事業者である当社にとりましては、引き続き受注価格競争が予想され、厳しい経営環境が続くと思われませんが、営業展開の強化と施工効率の向上に取組み、受注量の確保と収益性の改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、主力の気泡コンクリート工事が軽量盛土工事・管路中詰工事を中心に需要が見込まれ、また地盤改良工事も堅調な需要が見込まれることから、受注高5,070百万円、売上高5,050百万円、営業利益113百万円、経常利益119百万円、当期純利益77百万円を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本株主通信作成時において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おさください。



代表取締役社長  
花岡 浩一

## 財務諸表（要約）

## 貸借対照表

(単位：千円)

区 分	第57期 2018年3月31日現在	第58期 2019年3月31日現在	増減額 (対前期)
<b>資産の部</b>			
流動資産	1,554,711	2,049,323	494,612
固定資産	1,640,736	1,672,488	31,752
有形固定資産	1,350,615	1,385,020	34,405
無形固定資産	17,484	12,167	△5,317
投資その他の資産	272,636	275,300	2,664
資産合計	3,195,447	3,721,812	526,365
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,220,389	1,696,742	476,353
固定負債	647,975	687,625	39,650
負債合計	1,868,364	2,384,368	516,004
<b>純資産の部</b>			
株主資本	1,324,665	1,337,666	13,000
資本金	209,200	209,200	-
資本剰余金	180,400	180,400	-
利益剰余金	936,595	949,596	13,000
自己株式	△1,529	△1,529	-
評価・換算差額等	2,416	△222	△2,639
純資産合計	1,327,082	1,337,443	10,361
負債・純資産合計	3,195,447	3,721,812	526,365

## 損益計算書

(単位：千円)

区 分	第57期 (自2017年4月1日 至2018年3月31日)	第58期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	増減額 (対前期)
売上高	3,773,273	4,282,536	509,263
売上原価	3,271,142	3,491,480	220,338
売上総利益	502,131	791,056	288,925
販売費及び一般管理費	614,712	750,588	135,876
営業利益又は営業損失(△)	△112,581	40,467	153,048
営業外収益	15,927	16,133	206
営業外費用	8,224	7,142	△1,082
経常利益又は経常損失(△)	△104,878	49,457	154,335
特別利益	3,156	698	△2,458
特別損失	93,079	8,569	△84,510
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	△194,801	41,587	236,388
法人税、住民税及び事業税	2,161	16,823	14,662
法人税等調整額	△55,265	△5,306	49,959
当期純利益又は当期純損失(△)	△141,697	30,069	171,766

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	第57期 (自2017年4月1日 至2018年3月31日)	第58期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	増減額 (対前期)
営業活動による キャッシュ・フロー	△270,622	390,834	661,456
投資活動による キャッシュ・フロー	△57,128	△37,929	19,199
財務活動による キャッシュ・フロー	△29,595	△8,429	21,166
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	△357,346	344,475	701,821
現金及び現金同等物 の期首残高	732,186	374,839	△357,347
現金及び現金同等物 の期末残高	374,839	719,315	344,476

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号  
 2018年2月16日)等を第58期事業年度期首から適用しており、繰延  
 税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債  
 の区分に表示する方法に変更しております。

## 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第58期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額 等合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計					
					別途 積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	209,200	180,400	180,400	24,050	985,000	1,015	△73,469	936,595	△1,529	1,324,665	2,416	2,416	1,327,082
当期変動額													
剰余金の配当							△17,069	△17,069		△17,069			△17,069
別途積立金取崩					△100,000		100,000	-		-			-
固定資産圧縮積立金取崩						△105	105	-		-			-
当期純利益							30,069	30,069		30,069			30,069
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											△2,639	△2,639	△2,639
当期変動額合計	-	-	-	-	△100,000	△105	113,106	13,000	-	13,000	△2,639	△2,639	10,361
当期末残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	909	39,637	949,596	△1,529	1,337,666	△222	△222	1,337,443

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 第58期決算のポイント

## ポイント①受注高

気泡コンクリート工事全体の受注高は、前事業年度比38.3%増となりました。内訳は、空洞充填工事が30.2%減となりましたが、見込んでいた大型工事を順調に受注出来たことで軽量盛土工事が53.5%増、管路中詰工事が151.7%増となりました。

地盤改良工事におきましては、取引先の破綻による受注高の減額や大型工事の発注遅れ、また受注価格競争の激化で、前事業年度比38.9%減となりました。

## ポイント②完成工事高

受注高が増加した軽量盛土工事の完成工事高が前事業年度比28.1%増、管路中詰工事でも完成工事高が176.8%増となり、受注高が減少した空洞充填工事においても前事業年度からの繰越工事があったことから完成工事高は8.8%増となり、気泡コンクリート工事全体の完成工事高は3,232百万円(前事業年度比35.9%増)となりました。

一方、地盤改良工事の完成工事高は、受注高が大幅に減少したことから30.1%減となりましたが、工事全体の完成工事高は前事業年度比13.5%増となりました。

## ポイント③完成工事総利益率

気泡コンクリート工事の完成工事総利益率は、施工の効率化による工事原価の低減で前事業年度に比べ3.3ポイント好転いたしました。地盤改良工事では前事業年度に施工不良に伴う再施工で完成工事総利益率が著しく悪化しましたが、当事業年度も想定外の施工トラブルが発生し、前事業年度に比べ0.9ポイントの好転に留まりました。工事全体の完成工事総利益率は、完成工事高の構成において利益率が高い気泡コンクリート工事の完成工事高が大幅に増加したことから、前事業年度に比べ5.1ポイント好転しました。

## ポイント④営業利益

売上総利益は前事業年度に比べ288百万円増加しましたが、取引先の経営破綻に伴う貸倒損失118百万円の計上により販売費及び一般管理費が大幅に増加し、営業利益は40百万円(前事業年度は112百万円の営業損失)となりました。

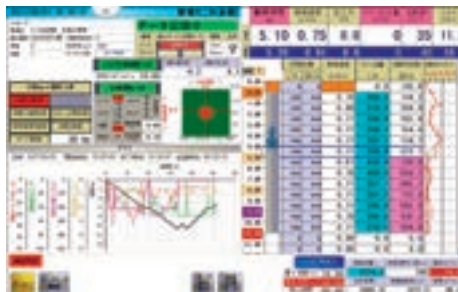
## トピックス

### 1. ICT施工機の導入

地盤改良工法のアスコラムTYPE IIにおいて、施工機・ポンプ・プラントを一括してコンピュータ制御が出来、施工状況をリアルタイムに遠隔地でも確認することの出来る全自動施工管理制御システムの施工機を導入いたしました。ICTの全面的な活用による生産性の向上に取り組んでおります。



ICT施工機



施工状況管理モニター（イメージ）

### 2. NLG工法の実績を重ねています

非エア系グラウト材を使用し、トンネル等の背面空洞や構造物と地山との空洞の充填を目的に長距離圧送を可能にした工法であるNLG工法の実績を重ねています。

当社開発の新プラントを使用するなど更なるブラッシュアップに努めており、水に強く、長距離圧送が可能な本工法は市場でも高評価を得ております。

2019年3月には同工法で使用する「ミキシングユニットおよびグラウト充填方法」の特許が登録されました。今後、更なる普及に注力してまいります。



施工風景1



施工風景2

## ■ 会社概要 (2019年3月31日現在)

会社名	麻生フォームクリート株式会社
本社所在地	神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号
従業員数	99名
設立	1961年6月1日
資本金	2億920万円
事業内容	気泡コンクリートの現場施工 地盤改良工事の施工 その他工事の施工及び工事施工用資材 (起泡剤等)の商品の販売

## ■ 役員 (2019年6月26日現在)

代表取締役社長	花岡 浩一
取締役	福原 章介
取締役	長谷川 隆敏
取締役	井上 喜博
取締役	杉山 嘉則
常勤監査役	阿部 新太郎
監査役	沼田 紳介
監査役	大瀨 理
監査役	大木 章史

## ● 主な工事経歴

注 文 者	工 事 名
清水建設株式会社	群馬ハツ場ダム (官)
ケミカルグラウト株式会社	JV横須賀火力発電岩G
日本海工株式会社	館山道富津工事の内、軽量盛土工
杉山建設株式会社	平成30年度 東海環状大野神戸IC南道路建設工事
JFEエンジニアリング株式会社	日立ライン (茂宮川・石名坂シールド工区)



ハツ場ダムでの軽量盛土工

## ● 支店・営業所

東京支店	神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号
大阪支店	大阪府茨木市沢良宜西4丁目15番14号
福岡支店	福岡県糟屋郡須恵町大字須恵714番地1
札幌営業所	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番地27 北海道たばこ会館ビル4F
東北営業所	宮城県仙台市太白区泉崎1丁目32番20号 プレミア泉崎102号室
東京営業所	東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 お茶の水伊藤ビル2F

※2019年4月より事業本部制を支店制に変更しております。

## ■ 株式の状況 (2019年3月31日現在)

■発行可能株式総数	普通株式	12,080,000株
■発行済株式の総数	普通株式	3,413,806株 (自己株式6,194株を除く)
■一単元の株式の数		100株
■株主数		1,291名 (うち議決権を有する株主数1,051名)
■大株主		

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合(%)
株式会社麻生	1,420,000	41.59
株式会社麻生地所	400,000	11.71
麻生商事株式会社	300,000	8.78
宗教法人萬福寺	232,300	6.80
株式会社三井住友銀行	60,000	1.75
株式会社福岡銀行	60,000	1.75
株式会社西日本シティ銀行	60,000	1.75
麻生フォームクリート従業員持株会	46,400	1.35
上田八木短資株式会社	46,300	1.35
麻生興産株式会社	40,000	1.17

(注) 所有株式数の割合は自己株式 (6,194株) を控除して計算しております。

## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月下旬
- 基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
及び特別口座の 三井住友信託銀行株式会社  
口座管理機関
- 郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)

### ○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○「配当金計算書」について


配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。  
確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

## ホームページのご案内

麻生フオームクリートはホームページ上でも各種IR情報を発信しております。ぜひご利用ください。

<https://www.asofoam.co.jp/>



 **麻生フオームクリート株式会社**

神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

お問い合わせ先 TEL044-422-2061(代表) 財務経理部